

アートフルうちうらく内浦公民館>だより

Artfull

令和3年6月11日発行
(2021) <Vol.93>

[発行]

内浦公民館
〒919-2351
高浜町山中 104-4-2
TEL.0770-76-2007
FAX.0770-76-2008

E-mail
uchiura_c.c@town.takahama.fukui.jp

内浦保育所遠足



5月14日(金)

6人のお友達が内浦公民館に来てくれました。あいさつを済ませると多目的コートの遊具で元気いっぱい遊んでいました。カメラを向けるとポーズもバッチリ！みんなの笑顔と声が聞こえてくると、私たちも楽しい気分になりました。



カメラに向かって
こんなポーズできるよ♪



■ 町のホームページで【Artfull】のカラー版
をご覧ください。

【Artfull】カラー版 ⇒



●開館時間 午前8時30分～午後10時 ●利用時間 午前9時～午後9時30分
※夜間利用が無い場合は午後5時00分で閉館いたします。

★内浦の魅力再発見★【小黑飯編】

【春のハイキングでもお世話になった小黑飯区の濱川さんにお話を伺いました】

奥：小黑飯区は内浦地区の中でも神事・仏事に関する年間行事が多いと聞いています。始めにお盆行事の『精霊舟』について教えてください。

濱川：小黑飯区では『ショウロブネ』と呼んでいます。竹で骨組みして、藁を使って作ります。帆は新聞紙を代用します。精霊舟にお供え物を入れ、8月15日の夕方海岸からお送りするのです。最近では木箱等で代用することもあります。竹や藁が手に入りにくかったりしますから。それと夕方に送るのには理由があります。風の流れです。昼間は陸に向かって吹くので、舟を沖に送るには、海に向かって風が吹く夕方がよいのです。



奥：写真を見せていただきましたが、本格的な造りですね。昔からずっと続けられている事がすごいと思います。内浦地区の中でも貴重な行事だと思います。次は小黑飯区の神社についてなのですが、天神様と関係があると聞きました詳しく教えてください。

濱川：北野天満宮の分社で40年位前は天神講を行っていました。学問の神様ですから、子供が居る家もちまわりで子供達が家に集まり1日中遊ぶ。天神講は子供達が減ってくると同時に自然となくなりました。ところで、知っていますか？菅原道真が九州の太宰府に流された事と関連しているのですが…小黑飯区では【にわとりを飼ってはいけません！】食べるのはいいのですが…。

奥：えっ？なぜですか？

濱川：道真は夜明けと共に配流すると決められていました。一刻も早く流そうと考え、熱湯を入れた青竹ににわとりをとまらせ無理に鳴かせた。その為菅原道真は、にわとりを恨んでいる。という言い伝えによります。

奥：すごく興味深いお話ですね。8月に青葉山詣りとお千度詣りを一緒にされている事にも驚きました。

濱川：昔は朝6:00から青葉山詣りで午後お千度詣りと一日仕事でした。今は朝8:00から中山寺詣りで午後お千度詣りに変更しています。これからも【皆が住みやすい村を残したい】と思っています。

奥：【皆が住みやすい村を残したい】というお話を伺って、たくさんの行事を続ける大切さと大変さがわかりました。濱川さん、詳しく教えていただきありがとうございました。

《内浦地区の皆さん、色々お話する事を楽しみにしています！よろしくお願ひします》

～内浦公民館からのお知らせ～

4月から内浦公民館では《ラジオ体操》をしています(*^_^*)
毎日午前9時過ぎから《ラジオ体操》1か2を日替わりで行っています。子供の頃は夏休みの恒例でしたが、最近はラジオ体操をやっている地区は少ないのではないのでしょうか。ラジオ体操は全身運動で一日の始まりに最適のようです。公民館職員の私たちと一緒に《ラジオ体操》をしませんか？ラジオ体操2は、覚えているようでいざやってみると忘れていたところがあったりします。一緒にラジオ体操習慣にしましょう！
気軽にどうぞ！ご参加お待ちしております(*^_^*)





今回は 宇佐美まこと著『羊は安らかに草を食み』です。

86歳の益恵と80歳のアイ、そして77歳の富士子。3人は20年以上付き合いのある仲良しだが、益恵の認知症が進み意思の疎通が困難になってきた。益恵の夫は妻を施設に入れることを決め、その前に益恵と一緒に旅行してもらえないかと2人に依頼する。益恵は最近、認知症のせいか、これまで心のなかにしまい込んでいた過去の体験を思い出し、その不安や恐怖に苦しめられている。それから解放してやりたい。

行き先は益恵が前夫と過ごした大津、松山そして旧満州から引き揚げ後に暮らした長崎県の離島。益恵の人生の過去を辿り、心のつかえを探し当てる旅に出る。行く先々で当時の益恵を知る人から話を聞き、ついに長崎で生涯抱え続けてきた益恵の秘密に触れる。もう本人は覚えていない様子であるが。

並行して語られる旧満州時代の益恵の物語。戦争末期、関東軍は民間人を見捨てて逃げてしまい、益恵たち家族はソ連軍の攻撃により、銃弾の飛び交う地域を逃げ惑い、満人から襲われ、女子供は連れ去られ、集団自決する者や子供を捨てて逃げ出す親たち、ついに益恵も家族と死に別れ、10歳の子どもがただ生き抜くために闘う過酷な日々が続く。同じ孤児である佳代と出会い、二人で助け合いながら、生きるすべを身につけていく。日々の食にありつくために、泥棒は当たり前で、転がっている死体から着るものを剥がして売ったり、益恵は佳代を襲った満人の頭に石を叩きつけ殺し、助けたこともあった。

アイも富士子も平穏な生活を送っているわけではなく、アイは離婚した娘が勝手に同居の申し出をしてきたり、息子は嫁の両親を連れて、アイの用意した家に住み着こうとしたり、アイの自由な生活を脅かせており、富士子は独身であったが、ある男性と付き合っていたことがあり、重大な問題を抱えていたのであった。それぞれの悩みを抱えながらも、益恵のために力になろうとする。

益恵は今の夫と結婚する前に、別の男性と結婚していたが、その夫の暴力に耐えていた。二人の間には子供ができたが、すぐに亡くしていた。益恵は死なせたのは私のせいだといい、重大な秘密を抱えたまま一生を終えようとしていた。

長崎で再会した佳世と益恵は共通の秘密を抱えており、その秘密を知ってしまったアイと富士子は、とんでもない方法で、その不安のもとを取り除こうとするが。



大津、松山、長崎と3人の辿る旅路は、記憶が失われてしまっても、消えない友情の物語であり、戦争体験者の癒えることのない記憶の物語でもあります。本書の半分は益恵と佳代の引き揚げの逃避行体験が詳細に語られており、満州へは「五族協和」「王道楽土」等の名目のもと、満蒙開拓団として送り込まれた27万人もの民間人が取り残され、8万人もの死者を出したという現実を、次の世代に語り継ぐべきと著者は読者に投げかけます。

らくらく運動教室を開催しました

5月25日(火) 13:30~15:00

リニューアルした「らくらく運動教室」を日引ふれあい広場で行いました。

年齢性別問わず一緒に体操をしましょう！と始めた第1回目です(*^_^*)

運動指導は理学療法士の松本悠作さん。わかりやすい解説を加えながら、カラダの動かし方のアドバイスをいただきました。前半は体育館で椅子やマットを使って体操。後半は2階トレーニングルームのマシンを使用しました。何気なく使っていた時と違い、意識する部分を教えてもらえると、皆さん感心しながら熱心に動かしていました。

- 次の開催は7月27日(火)です！
皆さんのご参加おまちしています！



■ 男の体操 (偶数月の第4火曜日実施) 【会場】内浦公民館

*開催は6月22日(火) 13:30~ 内浦公民館多目的ホール

元気な毎日を過ごしたい方。無理なく楽しく続けていきましょう！

運動指導：松本 悠作 氏 (高浜町保健課 理学療法士)



★チャレンジコーナー【紙コップヨーヨー】結果発表★チャレンジ回数…76回

小学3年生以下の部	一位	田中 遼馬 さん	21回
	二位	森嶋さくら さん・國安 梢さん	18回
	三位	山本 真穂 さん	17回
小学4年生以上の部	一位	山本 幸作 さん	40回
	二位	土本 成輝 さん	34回
	三位	山本 来望 さん	31回

チャレンジ★ありがとうございました(*^_^*)6月と7月は【壁の向こうへ】です！
ぜひチャレンジしてください。

◆ 館内展示の紹介

内浦公民館1階ホールでは<内浦ガーデン>花でつながろうと題して地域の皆さんが育てておられる花の写真を展示しています。花の写真をメールで送っていただいてもいいですし情報をお寄せいただいたら、写真を撮りに伺います。ボードを花の写真でいっぱいになりたいと思っています。ぜひ気軽にお声かけ下さい(^o^)そして見に来てください。よろしくお願ひします！

<*内浦公民館メールアドレス uchiura_c.c@toun.takahama.fukui.jp>



【お願い】新型コロナウイルス感染防止対策の為、受講時には原則としてマスクの着用、アルコールによる手指の消毒をおねがいします。また、受講前には必ずご自宅での検温をお願いいたします。(体温が37.5℃以上や体調が悪い場合はご遠慮ください)

利用時においては、定期的な施設内の換気にご協力ください。